

本州四国連絡道路の収支状況（平成17年度）

本四道路は、有料道路事業として建設され、建設に要した費用等を料金収入により償還を行うこととなっています。この有料道路事業の経営状況を示すため、平成17年度決算のうち道路分について、本州四国連絡道路の収支状況として整理しました。

1. 財務諸表（道路分）

（1）貸借対照表（図1参照）

資 産 の 部		負債及び資本の部	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
	億円		億円
流動資産	312	流動負債	90
固定資産	36,081	固定負債	22,678
事業資産		本州四国連絡橋債券	16,154
道 路	35,650	長期借入金	6,453
事業資産建設仮勘定		その他	72
道路建設仮勘定	258		
有形固定資産	171	特別法上の引当金等	
その他	2	償還準備金	2,625
繰延資産	47	（負債合計）	25,394
		資本金	11,046
		（資本合計）	11,046
資 産 合 計	36,440	負債・資本合計	36,440

（2）損益計算書（図2参照）

費 用 の 部		収 益 の 部	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
	億円		億円
経常費用	398	経常収益	404
事業資産管理費		業務収入	403
道路管理費	44	道路料金収入	402
一般管理費	48	業務雑収入	2
一般管理費	43	その他	1
その他	6		
引当金等繰入			
償還準備金繰入	96		
業務外費用	209		
特別損失	6		
合 計	404	合 計	404

図 1

貸借対照表

(単位：億円)

平成16年度

平成17年度

平成16年度		平成17年度	
資産合計	負債資本合計	資産合計	負債資本合計
36,263	36,263	36,440	36,440
事業資産 35,646	負債 25,616 (借入金等) (22,935) (うち有利子借入金等) (20,329) 償還準備金 2,529	事業資産 35,650	負債 25,394 (借入金等) (22,607) (うち有利子借入金等) (20,001) 償還準備金 2,625
その他の資産 616	資本金 10,646	その他の資産 790	資本金 11,046

注) 単位未満四捨五入のため、合計とは端数において合致しないものがある。

図 2

損益計算書

(単位：億円)

平成16年度

平成17年度

平成16年度		平成17年度	
費用	収益	費用	収益
775	775	404	404
管理費 191	収益 (料金収入等) 775	管理費 93	収益 (料金収入等) 404
業務外費用 472		業務外費用 215	
113 ↑ 償還準備金繰入		96 ↑ 償還準備金繰入	

注 1) 単位未満四捨五入のため、合計とは端数において合致しないものがある。

2. 本四道路の路線別収支

本四道路は、3ルートプール制を採用しており、収支は全体で把握していますが、参考のため、収益は路線毎、費用については、金利は路線毎の借入金残高に相当する額に応じて配分し、管理費は路線毎の管理に要した経費を計上して路線別の収支状況を試算した結果を示すと次のとおりとなります。

平成17年度は管理費の節減と金利負担の減少により、各ルートとも収支率が改善され、全体の収支率は76となりました。

路線別収支試算

()は平成16年度

路線名	供用延長 (km)	収益 (A) (億円)	費用(B) (億円)			収支率	
			管理費 (C)	金利等	計	(B)÷(A) ×100	(C)÷(A) ×100
本州四国連絡道路	172.9	(775) 4 0 4	(191) 9 3	(472) 2 1 5	(663) 3 0 8	(86) 7 6	(25) 2 3
一般国道 28号 (神戸淡路鳴門自動車道)	89.0	(430) 2 2 6	(86) 4 3	(236) 1 0 3	(322) 1 4 6	(75) 6 4	(20) 1 9
一般国道 30号 (瀬戸中央自動車道)	37.3	(230) 1 1 8	(51) 2 5	(110) 5 3	(161) 7 9	(70) 6 7	(22) 2 1
一般国道317号 (西瀬戸自動車道)	46.6	(116) 5 9	(53) 2 5	(126) 5 8	(179) 8 3	(154) 1 4 0	(46) 4 3

(注1) 単位未満四捨五入のため、合計とは端数において合致しないものがある。

(注2) ・「収益」には、料金収入、道路占用料、雑収入等を計上している。

・「管理費」には、道路の維持修繕、料金収受等に要した費用と消費税を計上している。

・「金利等」には、営業中の道路の建設、改良に投下した借入金の利息(債券利息、借入金利息)、雑損等を計上している。

・収支率は、営業中本四道路全体の収支率($B \div A \times 100$)と、費用から金利等を除いた場合の収支率($C \div A \times 100$)を示している。

3. 償還計画と実績の対比

平成15年3月料金認可の償還計画（注）と平成17年度の実績（半年）を比較しました。償還計画は、本州四国連絡橋公団が本四道路の料金及び料金徴収期間の認可を国土交通大臣から受ける際に、料金徴収期間算出の基礎として平成15年3月に策定したものです。

- ・平成17年度（上半期）の収支差の実績96億円（半年分）は、経費節減や低金利の影響により、半年間ながらも計画の105億円（1年分）に近い収支差を確保することができました（図3参照）。
- ・償還準備金は2,625億円で計画の2,469億円を上回り（表2参照）、有利子負債（平成17年9月末）の実績は20,001億円で、平成17年度下期にも出資金400億円をいただけることを考慮すると年度末には2兆円を下回り、計画を下回ることは確実です（図4参照）。

（注）償還計画と決算書では前提条件が異なるため、次のとおり修正を加えています。

償還計画の管理費からは、資産に振り替わる営業中道路の改良費などを控除した。

償還計画上の金利からは、建設中道路にかかるものを控除した。

債務切り離しに伴う債務免除益等を除いている。

営業中道路の資産総額は、計画作成時の実績値に償還計画上の管理費のうち資産に振り替わる改良費を加算した。

償還準備金（欠損金）は計画作成時の実績に各年度の収支差の額を加算した。

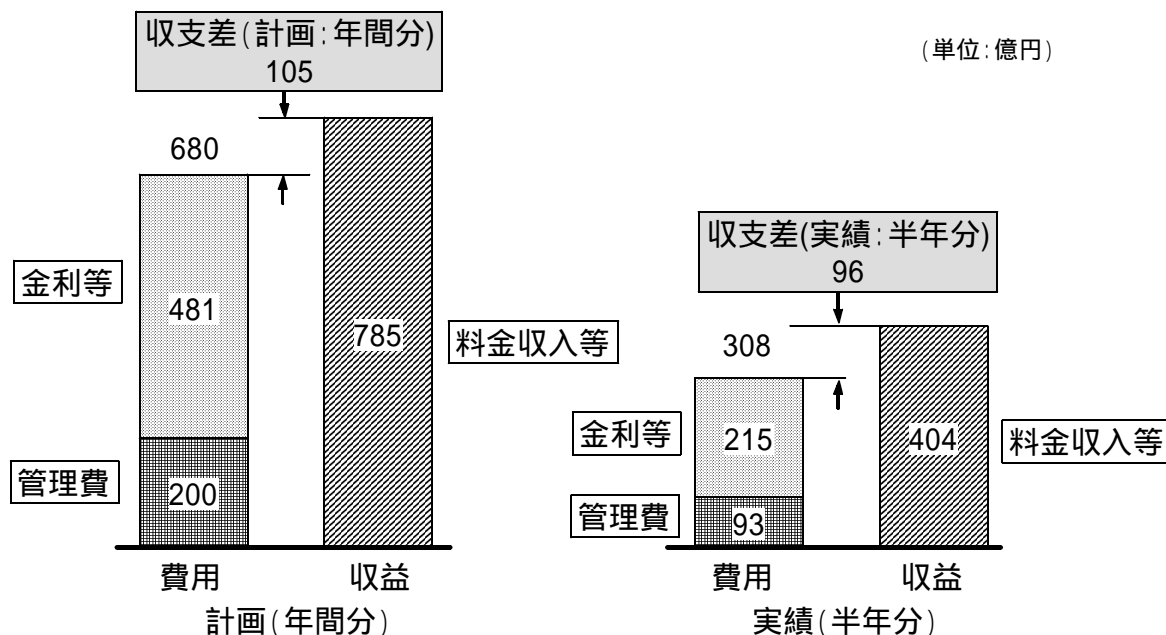


図3 平成17年度 償還計画と実績の対比（損益計算書ベース）

表1 営業中道路の費用及び収益（現行償還計画との対比、単位：億円）

年度		費用			収益	収支差	収支率 (%)
		管理費	金利等	計			
14年度	計画	245	1,125	1,370	839	531	163
	実績	216	1,102	1,318	853	465	155
	-	29	23	52	14	66	9
15年度	計画	229	549	778	791	13	98
	実績	202	535	737	797	60	92
	-	27	14	41	6	47	6
16年度	計画	212	513	726	786	61	92
	実績	191	472	663	775	113	85
	-	21	41	63	11	52	7
17年度	計画(年間分)	200	481	680	785	105	87
	実績(半年分)	93	215	308	404	96	76
	-	107	266	373	381	9	11

(注) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

表2 営業中道路の償還状況（現行償還計画との対比、単位：億円）

年度		営業中道路 の資産総額 (A)	償還準備金 (欠損金) (B)	営業中道路 の要償還額 (C=A-B)	償還率 (%) (D=B/A)
14年度	計画	35,565	11,177	46,742	31.4
	実績	35,563	11,111	46,674	31.2
	-	2	66	68	0.2
15年度	計画	35,636	2,304	33,332	6.5
	実績	35,583	2,416	33,167	6.8
	-	53	112	165	0.3
16年度	計画	35,665	2,364	33,301	6.6
	実績	35,646	2,529	33,118	7.1
	-	19	165	183	0.5
17年度	計画(3月末)	36,001	2,469	33,532	6.9
	実績(9月末)	35,650	2,625	33,024	7.4
	-	352	156	508	0.5

(注) 償還準備金のマイナスは欠損金を示す。

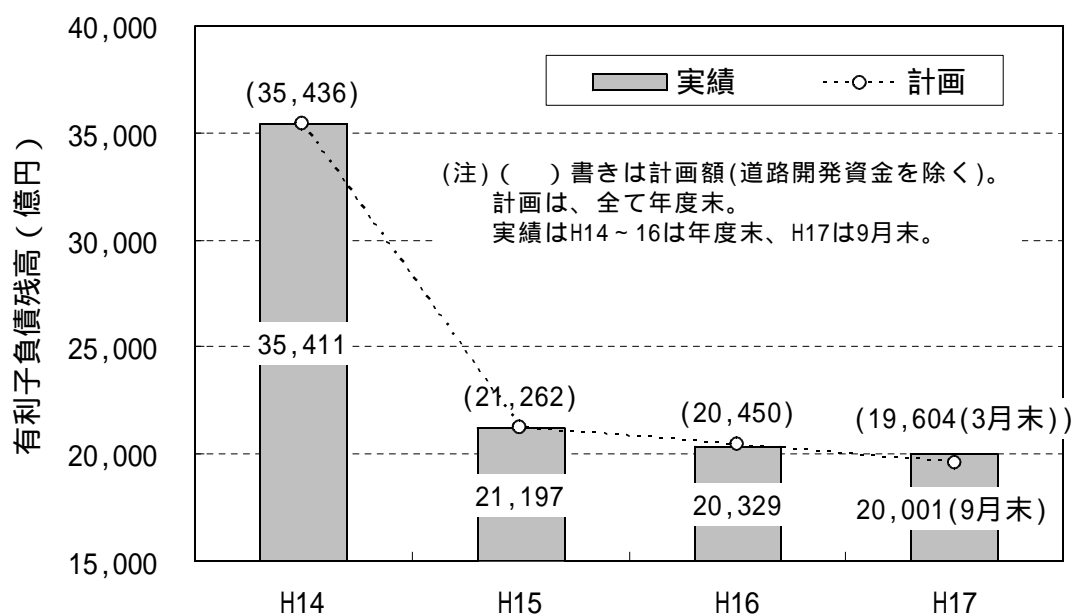


図4 償還計画と実績の対比（有利子負債残高）